

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	さぬき市立志度東中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	1	8	19
生徒数	80	99	75	2	256	

研究の概要

1 研究主題

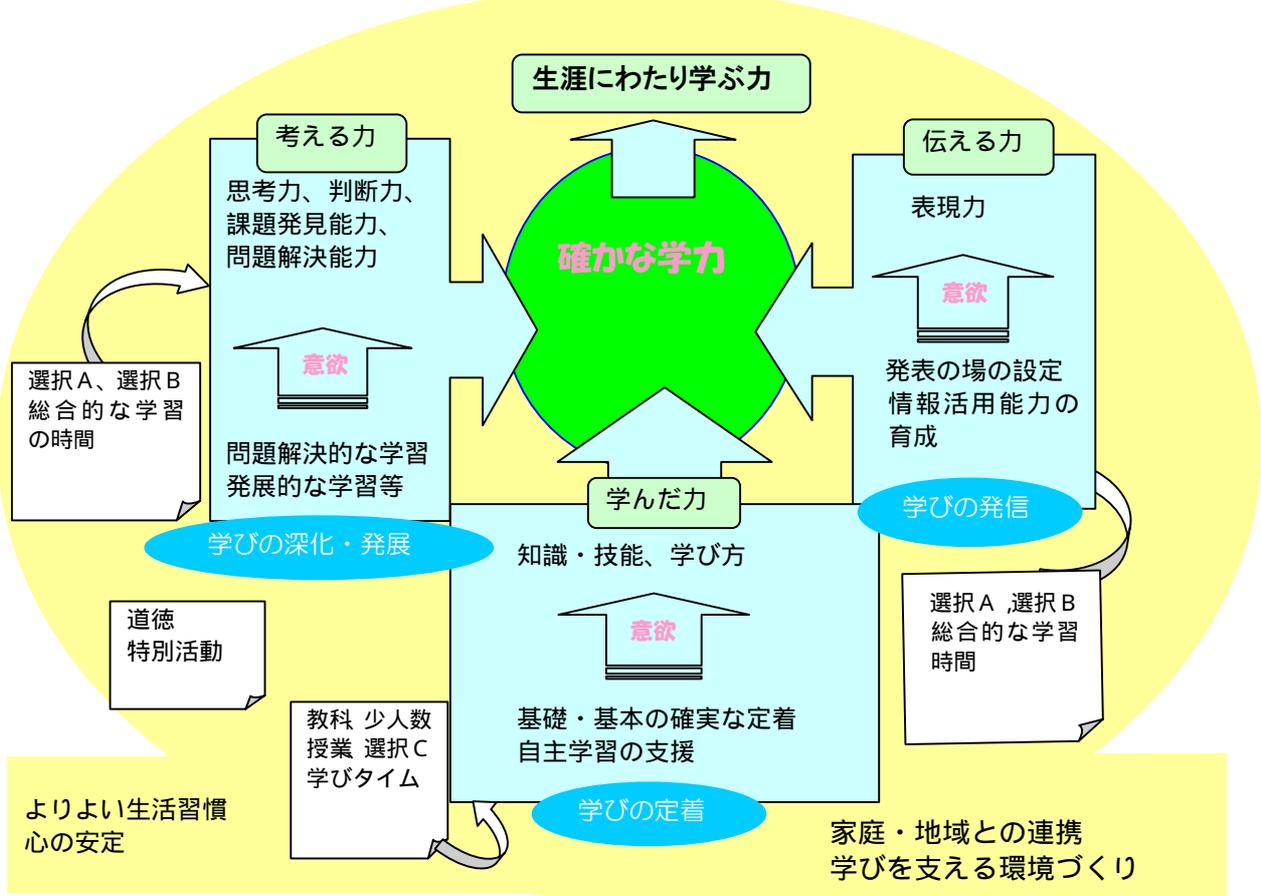
一人一人の個性を伸ばし、主体的にたくましく生きる生徒の育成
「確かな学力」の向上を求めて-

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

選択教科における発展的な学習や補充的な学習（研究実践を継続、拡大していくため）

- ・ 選択A（発展的な学習） - 国、社、数、理、英 2年、3年
 - ・ 選択B（発展的な学習、補充的な学習） - 音、美、保体、技・家 2年、3年
 - ・ 選択C（補充的な学習） - 国、社、数、理、英 1年、2年、3年
- 少人数授業等
- ・ 1、2、3年数学（生徒の理解の速さに差が出やすい単元があるため）
 - ・ 1、2、3年英語（生徒の理解と定着に差が出やすい教科であるため）

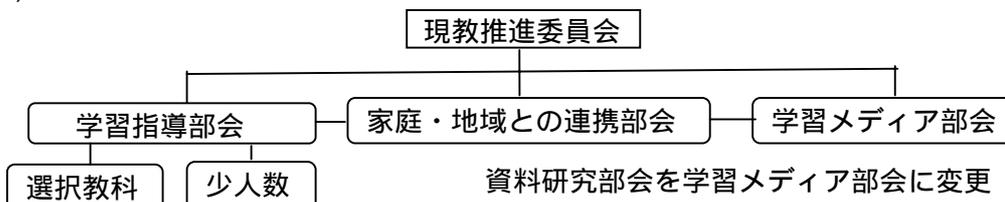


「確かな学力」を、「学んだ力」、「考える力」、「伝える力」ととらえ、それらを総合的に高める中で、学ぶ楽しさを味わわせ、学ぶ意欲や興味・関心を育て、「確かな学力」を培い、「生涯にわたり学ぶ力」を身に付けさせることを目指す。

(2) 年次計画

平成14年度	<p>テーマ 一人一人の個性を伸ばし、主体的にたくましく生きる生徒の育成 「確かな学力」の向上を求めて－</p> <p>仮説 選択教科の発展的な学習や補充的な学習の教材を開発し、指導方法・支援を工夫すれば、また、生徒のつまずきが予想される教科や単元において指導方法・指導体制を工夫改善すれば、生徒一人一人の学習が深まり、自主的な取り組みができ、意欲的に学ぶことができる。生徒の学ぶ意欲は他の学習活動にも反映され、確かな学力を培うことができる。</p> <p>研究内容・方法 学習指導部会、教科部会 ・選択A、選択Bにおける発展的な学習のための教材開発、指導方法・支援の工夫（外部人材の活用等） ・選択Cにおける補充的な学習のための教材開発 ・指導方法・指導体制の工夫（数、英の少人数授業） 資料研究部会 ・選択教科の開設教科、開設学年の拡大 ・学力向上フロンティア事業に関する実態把握（生徒、保護者アンケート） 家庭・地域との連携部会 ・家庭との連携（あいさつチェックシート、朝食アンケートによる生活習慣の見直しの意識化、学校だよりの活用） ・ゲスト・ティーチャの招聘、学校支援ボランティアの活用</p>
平成15年度	<p>テーマ 一人一人の個性を伸ばし、主体的にたくましく生きる生徒の育成 「確かな学力」の向上を求めて－</p> <p>仮説 選択教科の発展的な学習や補充的な学習の教材を開発し、個に応じた指導や支援を工夫する。また、生徒のつまずきが予想される教科や単元において指導方法・指導体制を工夫改善する。さらに、家庭や地域と連携をとり、自主学習の支援を行うことにより、生徒一人一人の学習が深まり、自主的な取り組みができ、意欲的に学ぶことができる。それが情報活用能力の育成と連動して、生徒の学ぶ意欲は他の学習活動にも反映され、確かな学力を培うことができる。</p> <p>研究内容・方法 ・選択教科における教材開発、指導方法・支援の工夫 ・基礎・基本の確実な定着を図る指導方法・指導体制の工夫 ・情報活用能力の育成</p>
平成16年度	<p>テーマ 一人一人の個性を伸ばし、主体的にたくましく生きる生徒の育成 「確かな学力」の向上を求めて－</p> <p>研究の見通し 学んだ力、考える力、伝える力の育成や定着の検証</p> <p>研究内容・方法 ・選択教科における教材開発、指導方法・支援の工夫 ・基礎・基本の確実な定着を図る指導方法・指導体制の工夫、教材開発 ・情報活用能力の育成</p>

(3) 研究推進体制 研究部会ごとにテーマを設け、年間計画作成の上、研究に取り組んだ。



平成15年度の研究成果および今後の課題
研究成果

選択教科

学びの深化・発展
学びの発信

じっくり追究、学ぶ楽しさ、分かる喜び

- ① 参加・体験型ガイダンス
- ② 発展的な学習や補充的な学習活動の教材開発
 - ・ 指導方法、学習形態の工夫、
 - ・ 課題の持たせ方 東中漢字検定
- ③ 発表の場の設定
 - ・ 東中ニュースの放送
 - ・ 新聞への投稿
 - ・ 科学体験発表
 - ・ 県社会科研究発表会
 - ・ 合唱コンクール
 - ・ 県中ロボットコンテスト
 - ・ 行事のモニュメント看板制作、美術展
 - ・ 部活動チームとの対戦 等



考える力

伝える力

少人数授業

学びの定着

基礎・基本の定着を図る

少人数授業の在り方

数学科（単元に応じてコース編成）

導入、説明 問題練習等



英語科

1年

T・T

生徒選択



2年

ガイダンス

自己診断

生徒選択

基礎

発展

3年

（単元に応じてコース編成）

学んだ力

家庭・地域との連携

学びを支える基盤・環境づくり

よりよい生活習慣を意識づけるための啓発活動の在り方

保護者参加の授業実践
「朝食はなぜ大切か」
「朝食をゆっくりた
ぷり食べるには」
「命について」



- ② 家庭と連携してよりよい生活習慣を見直す取組
「あいさつ運動」「朝食アンケート」
「生徒の心の健康と生活習慣に関する調査」「保健だより」
「学校保健委員会だより」

自主学習の支援

学びの定着

- ① 「学びのてびき」の作成
9教科の勉強の仕方のガイダンス冊子
 - ・ 授業では ・家庭学習のポイント
 - ・ テスト勉強では ・受験勉強として
- ② 「学びタイム」の設定
生徒が疑問や質問のある教科を選び、その教師のいる教室へ行って勉強する「見つけ勉強」の時間
- ③ ホームページに過去のテスト問題を掲載
- ④ パソコン教室の開放
- ⑤ 朝の読書と朝の学習
- ⑥ 小テスト
- ⑦ 家庭学習の習慣化を図る課題



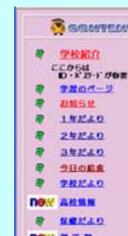
学んだ力

学習メディア

学びの発信

生活のなかで進んで情報を活用する
生徒の育成

- ① 総合的な学習の時間の活用
 - ・ 学びを発信できる情報活用能力の育成
（各クラス月2時間のパソコン学習を中心として）
- ② ネットワーク教育…情報モラルについて
- ③ ホームページの充実
 - ・ 生徒と教師が関わるホームページ作成
「今日の給食」…毎日更新
「学年団通信」…毎日更新
「部活動」「学習のページ」



生徒の学びの支援と、学校と家庭との連携を図るパイプ役

伝える力

「学びタイム」では、筆記具の音が耳に届く集中した学習ぶりや、3年生からは、「もっと早くから学びタイムがあるとよかった」という感想もでている。

(1) 基礎・基本の確実な定着について 【学びの定着】

平成14年10月実施の県学習状況調査では、3学年とも、実施3教科において全県の平均を上回る好結果が出た。また、平成15年5月実施の県学習状況調査では、現2、3年生の英語、数学、理科、計6教科（昨年度の内容）の内5教科で、県の平均より約2点から7点上回る好結果を収めた。

〈県学習状況調査の県平均との比較〉

教科	学年	本校—全県（今回）	本校—全県（前回）
数学	14年度入学生	-2.2	+4.2
	13年度入学生	+6.6	+5.2
理科	14年度入学生	+1.9	+3.6
	13年度入学生	+3.3	+5.6
英語	14年度入学生	+4.9	+6.5
	13年度入学生	+3.3	+2.2

(2) 少人数授業について〔指導方法...指導体制の工夫〕【学びの定着】

1、3年生の数学、1、2、3年生の英語で、習熟度別少人数授業を実施している。

生徒の変容

・数学科

一斉授業では、出しにくかった「分らん」「なぜ？」という言葉が、少人数授業になり出るようになった。「UPコース」では、いろいろな問題に挑戦する姿が見られる。少人数授業の後、「UPコース」の生徒が「ゆっくりコース」の生徒に教えるなど、互いに学び合う姿も見られ、教え合い学習ができるようになった。

・英語科

机間指導の充実により基本事項が定着し、それに伴って自由作文等の応用活動に生徒が自信を持って取り組めるようになった。自主的に発言する生徒が増え、特に、コミュニケーション活動が活発になるなど、表現面での進歩が顕著である。主体的に活動に参加し、積極的に質問するようになった。

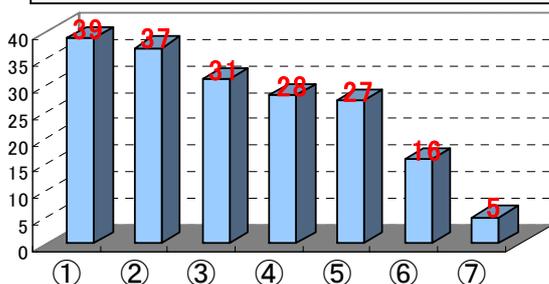
アンケートの実施

「少人数になって学習はよく分かるようになりましたか」では、「よく分かる・少し分かるようになった」が英語で73%、数学で79%、「少人数授業がよい」が英語で90%、数学で89%などであり、「落ち着いて学習できる」「直接教えてもらう機会が増える」「質問しやすい」「自分のペースで学習できる」と、生徒からは大変好評である。

また、理解の程度や身についた程度でコースを分けるのがよいと答えた生徒が90%である。

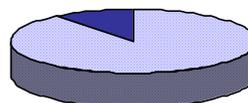
保護者のアンケートでは、「基礎・基本の定着に努めている（たいへんよい、ややよい）」が93%、「わかりやすい授業に努められている（たいへんよい、ややよい）」が85%と高い評価をいただいている。

少人数授業の良い理由はどんなところですか（人数）



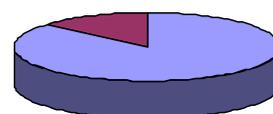
- ①直接教えてもらう機会が増える。
- ②質問しやすい。
- ③自分の力にあった学習ができる。
- ④自分のペースで進むことができる。
- ⑤人数が少ないので、落ち着いて学習できる。
- ⑥よくわかる。
- ⑦その他

少人数授業と通常の授業のどちらがよいですか



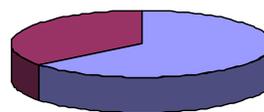
- ① 少人数授業
- ② 通常の授業

理解の程度や身についた程度でコースを分ける分け方をどう思いますか



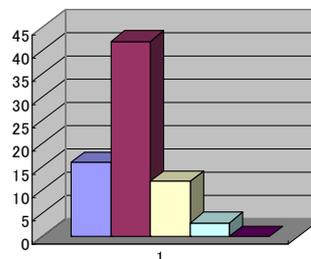
- ① 今のままでよい。
- ② 均等に2つに分ける。
- ③ その他

少人数を行うことについてどう思いますか



- ① してほしい。
- ② どちらでもいい。
- ③ してほしくない。

少人数になって学習はよく分かるようになりましたか（人数）



- ①よく分かるようになった。
- ②少し分かるようになった。
- ③以前と変わらない。
- ④少し分からなくなった。
- ⑤全く分からなくなった。

(4) 選択教科について [発展的な学習や補足的な学習]【学びの深化・発展、学びの発信】

選択教科アンケートを7月と2月に全校生に実施した。下記は、それぞれの項目で、「たくさんあった」、「少しあった」と答えた生徒の割合である。9割程度の生徒が年間を通じて、興味・関心を持って意欲的に学習に取り組んでいる。また、「新しく身に付いたことがあった」と答えた生徒が8割程度おり、選択教科の魅力や成果が伺える。

〈選択教科アンケート結果 %〉

月	選択A		選択B		選択C	
	7月	2月	7月	2月	7月	2月
興味・関心	93	87	95	99	85	89
意欲的な取り組み	89	89	96	97	92	94
身に付いたこと	94	76	81	83	73	74

新しく身に付いたこととして、



- ・相手にどのように話すとわかりやすく伝えられるのか（国語）
- ・自分で調べて自分で納得する力（社会）
- ・簡単に答えを導き出す方法、問題が早く解けるようになった（数学）
- ・実験の仕方、科学に対する知識（理科）
- ・読解力、長文が解けるようになった（英語）
- ・歌の練習の仕方（音楽）
- ・色のバランスや影の付け方、立体的な描き方、デッサンの仕方
- ・できない技ができるようになった（保体）
- ・ロボットの仕組み、動き方、作り方（技術）

などをあげており、生徒が、通常の授業からより学びを深化・発展させている様子が把握できる。

また、学習の成果を校内、校外で発表する場を設定したことにより、生徒の学習活動の意欲が高まり、自主的に活動内容を工夫し、充実した活動を行っている。生徒から「行事のモニュメントを制作したい」との声が上がるなど、学習活動を通して、生徒の、自ら考える力、表現する力、課題を見つけ解決する力が育っていると実感している。選択国語で取り組んだ新聞の投稿では、沖縄での修学旅行で戦争の爪痕を見て平和の尊さや自分たちに託されていることを考えた文章を読んだ地域の方から、ご自分の戦争体験や思いを綴った長い手紙をいただくなど、学びの発信が校外の方にも関心をもたれ、生徒は充実感を味わっている。

そして、やり遂げた達成感や成成感ハ生徒の自信となり、「もっと難しい問題がしたい」など、その意欲的な取り組みは他の学習や授業にも反映されている。

(5) 家庭・地域との連携について（学びを支える環境づくり）

保護者、学校保健委員参加の授業実践

- ・「食事について」の授業...学校保健委員会委員の参加
自分の食事調査を振り返り、「朝食はなぜ大切か」について考え、食生活の改善点を考えた。
- ・「生活リズム」の改善についての授業...保護者参加14名
「朝食をゆっくりたっぷり食べるには」というテーマで生活リズムの改善について考えた。
- ・「命について」の授業...保護者参加19名 3ページ写真参照
ドナーカードを所持することについて、当人やその家族の心のジレンマを掘り下げていき、命の大切さについて、親子ともに真剣に考え、語り合う授業となった。

家庭と連携してよりよい生活習慣を見直す取組

- ・「あいさつ運動」(6月)

家庭で朝のあいさつができたかどうかについて、2週間、保護者にチェックしていただいた。14日間のうち10日以上あいさつできた割合は80%で、保護者や地域の方から、次のような言葉をいただいております、よりよい生活習慣を育む働きかけへの理解の深まりを感じた。

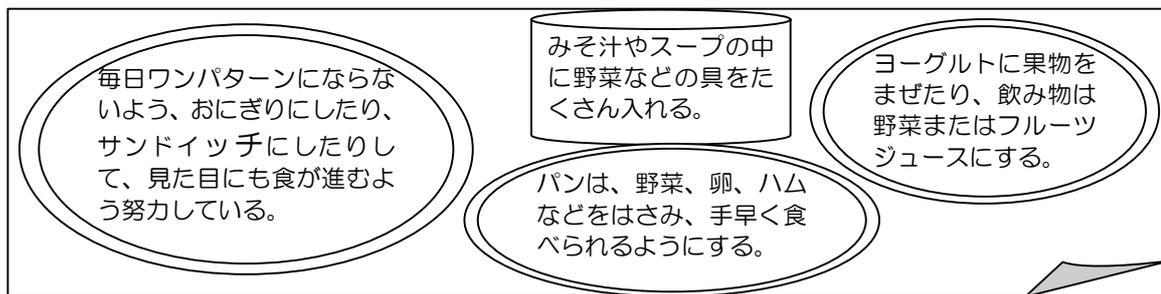
- ・おはようと自然に笑顔で言えることは、周りも本人自身も気持ちの良いことで、身体（精神的な）のバロメーターであると思っています。単にあいさつだけではなく、子どもの生活の様子を知る上でも役に立つのではと考えています。
- ・子どもとのコミュニケーションが取りにくい時期だけに、あいさつをかわすことができるとうれしくなります。
- ・親が大きく元気にあいさつをしていると、日ごとに元気な声が出るようになりました。毎日の積み重ねですね。（保護者）

- ・東中を訪れたとき、生徒がみんな大きな声であいさつをしてくれてとてもうれしくなった。（地域の方）
- ・みんながあいさつしてくれている学校だね。（修学旅行先の交流校）

・朝食アンケート」(9月)

栄養を、赤(血や肉になる)黄(働く力になる)緑(体の調子を整える)の3色に分類し、朝食でそれぞれの色が摂れたかどうかを、1週間チェックしていただいた。

アンケートでは、料理の工夫等を紹介していただき、朝食を見直す機会となった。



(6) ホームページの充実

志度東中学校ホームページの各サイトは、生徒の学びの支援と、学校と家庭との連携を図るパイプ役となっている。なかでも、「学年団通信」と「今日の給食」は、毎日見ている保護者も多く好評である。

「今日の給食」のコメントは給食委員が考えたり、部活動のページは各部の生徒が作成したりするなど、生徒もホームページ作成に関わり、学習の成果を発揮する場となっている。また、3年生の面接練習で、「東中の良いところは」という質問に「ホームページが充実しているところです。」という返答があるなど、生徒の関心も高く、テスト前にはプリントアウトした過去のテスト問題を解くなど、有効に活用している。

2 今後の課題

本校で「確かな学力」ととらえている「学んだ力」「考える力」「伝える力」を育てる教材の開発や指導方法・指導体制の工夫とその検証。

学力把握のための学校としての取組 (時期) 対象 ...調査の目的

- ・少人数授業アンケート(11月) 生徒 ...生徒の意識の変容
- ・選択教科に関するアンケート(7月、2月) 生徒 ...生徒の意識の変容
- ・学習事前事後テスト(4月、2月) 生徒 ...学びの定着の把握
- ・あいさつ運動(7月) 家庭、朝食アンケート(9月) 家庭 ...生活習慣の見直しの啓発
- ・生徒の心と体の健康に関する調査(11月) 保護者、生徒 ...生活習慣の見直しの啓発
- ・教育活動に関するアンケート(11月、2月) 保護者、生徒 ...教育活動の見直し

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 研究会、説明会等の開催実績および開催予定 (日時、場所) 対象 ...目的

- ・公開授業(平成15年11月11日、本校) 大川地区内小・中学校 ...研究成果の普及、評価
- ・講演会(平成16年2月28日、本校) 職員、保護者 ...職員研修、保護者啓発
- ・東讃地区協議会(平成15年7月31日) 東讃地区内フロンティアスクール ...交流研究
- ・東讃地区協議会(平成16年2月10日) 東讃地区内小・中学校 ...ポスターセッションによる研究発表による研究成果の普及、評価

2 研究成果普及のための実績等

- ・「学びのてびき」作成
- ・研究のまとめCD作成中
- ・志度東中学校ホームページに学力フロンティアのサイトを設け、更新中

【新規校・継続校】	15年度からの新規校		14年度からの継続校	
【学校規模】	3学級以下		4～6学級	7～9学級
	10～12学級		13～15学級	16学級以上
【指導体制】	少人数指導		T・Tによる指導	その他
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	音楽	美術	技術・家庭	保健体育
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】			有	無